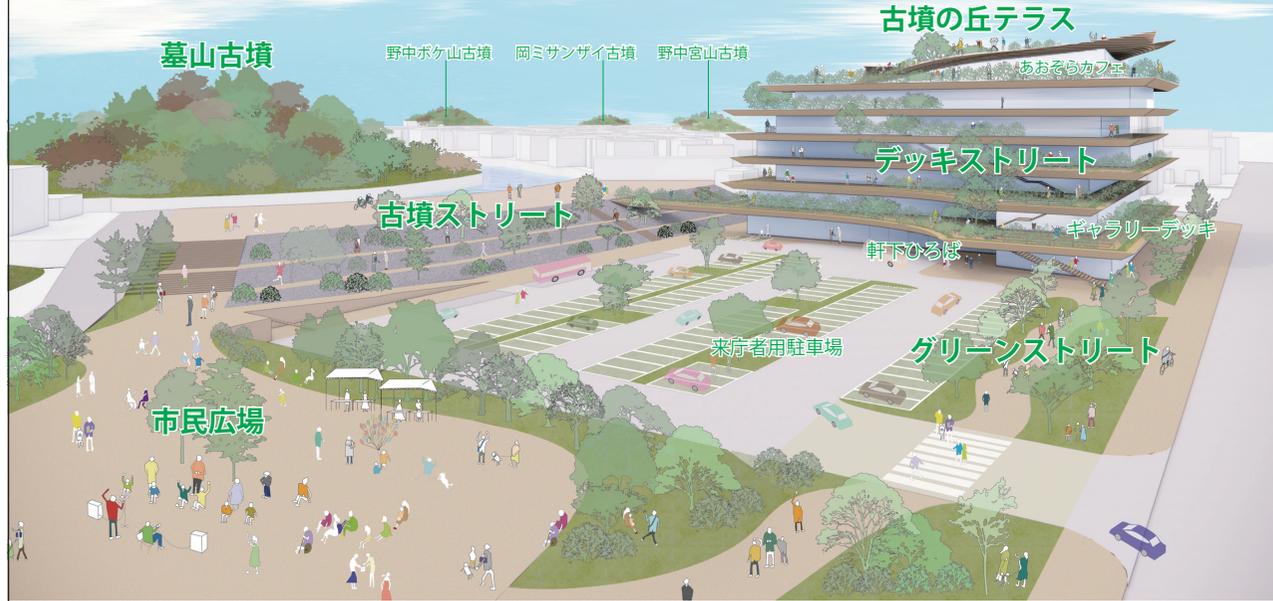


【テーマ別業務提案】 テーマ1：基本計画に基づく羽曳野市に相応しい庁舎について

『古墳』と『まち』を『公園』が繋げる、開かれた『みどり』の市役所

羽曳野市の歴史や景観と調和し、市民や来訪者の新たな拠点となる、親しまれる市役所を提案します。



1 歴史や環境、人々の『ハブ』となる市役所

観光や街の人々にとっての拠点となる市役所
展示ギャラリーや周辺の古墳を一望できる展望テラスを設け、市民の生活と古墳観光の拠点として機能する市役所を提案します。



3つの『みち』でつながるウォークアブルな市役所

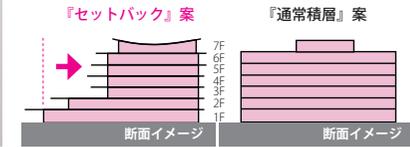
庁舎と市民広場を結ぶ『グリーンストリート』と『古墳ストリート』、庁舎1階から屋上までを結ぶ『デッキストリート』を設けます。古墳と調和する『みどり』を豊かに配し、ひとつながりのグリーン commons を形成します。



2 にぎわいを広げるセットバックとステップデッキ

セットバックにより街に対しての圧迫感をなくす

通常積層させる断面計画に対して、本提案では各階層をセットバックさせ外壁ラインをずらすことで、古墳を眺める憩いの場をつくります。また、ステップデッキを設けることでボリュームのずれと併せ、ヒューマンスケールで豊かな空間を作ります。



植栽豊かなステップデッキ

各階層にステップデッキを巻き付け、古墳の丘テラスまで一通階段を設けることで、通常時でも使いやすく、緑に囲まれたデッキストリートはウォークアブルで楽しい立体的な散歩道として計画します。



3 まちに開かれた、賑わいのある市民の活動拠点

市民広場、グリーンストリートとつながる大きな広とデッキを介して、各階の機能が一体的につながり、様々な市民の活動を支える、新しいまちの拠点をつくります。

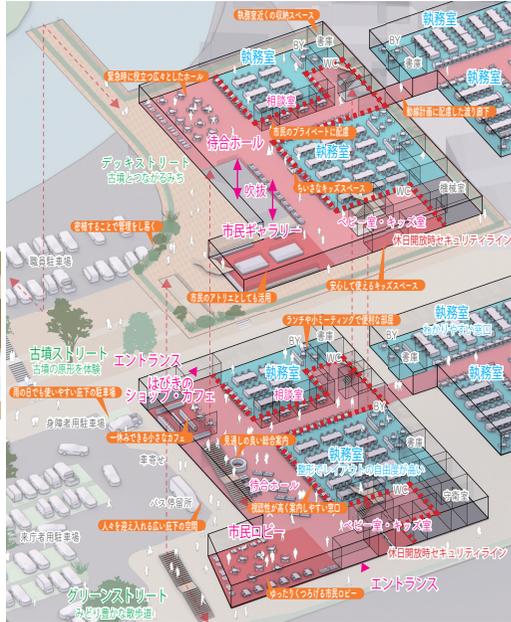
明るく開かれたバリアフリーな職場



古墳につながる『デッキストリート』



見通しがよく開放的な窓口



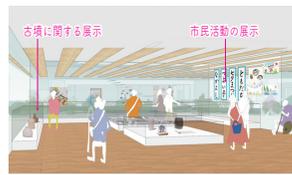
古墳と一体となる『古墳の丘テラス』

最上階にカフェと展望テラスを設け、古墳を眺める憩いの場をつくります。テラスには古墳と一体となるような植栽を計画します



気軽に立ち寄れる『市民ギャラリー』

市民活動の展示や、歴史ある羽曳野市の収蔵品を企画展示するスペースを設けます。

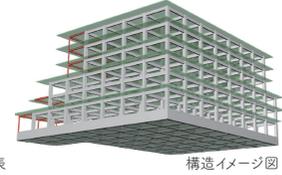


4 強さと経済性を併せ持つ構造計画

大地震後も庁舎および防災拠点としての機能を保持するために、耐震構造に減衰機能を有するダンパーなどの制振装置を付加的に配置する構造を検討します。RC造(一部S造)として純ラーメン構造とし、Pca化なども採用を検討します。基礎形式は地盤改良を想定した直接基礎を採用を検討し経済的に優れた基礎を提案します。

構造形式	地震	津波	液状化	コスト
免震	○	△	△	△
制震	○	△	○	○
耐震	○	○	○	△

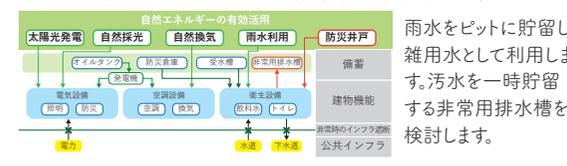
付加的に制震装置を配置 耐震比較表



構造イメージ図

5 災害に強く安心の拠り所となる庁舎

災害時にも長期間の運転稼働が可能な給電、給水、空調が機能する計画とし、燃料については電力が復旧する期間(72時間)を前提に非常用発電設備を設置します。費用対効果を検証した上、トイレが利用できるように発電機に接続された防災戸を設置します。



6 環境にやさしく、経済性の高い庁舎

現在地球規模で気候の変動が問題化しており、環境負荷低減に対して建物へ期待される性能が重要になっていきます。それらを背景に『ライフサイクルコストを抑え、CO2発生量を抑えた地球にやさしい計画』をコンセプトに設備計画を行います。省エネルギーの一つの指標としてNearly ZEB又はZEB達成を目標に費用対効果を検証しながら計画を行います。自然エネルギーを利用したシステムについては、効果の高いシステムを中心に計画します。

